

アーバントリップ実行委員会

第83回JIAアーバントリップ 若手建築家による 最新教会建築3題を訪ねて



アーバントリップ実行
委員会・企画担当
佐藤文人

第83回アーバントリップは、横浜・湘南方面に建てられた最新教会建築3題の見学を、設計された建築家自身による案内で行った。

偶然にも竣工年次は2013～2015年の3年間と同時期、設計者の年代も若手・中堅世代（'69～'75生まれ）の建築家による、構造型式は木造・鉄筋コンクリート造・鉄骨造とそれぞれの建物に合わせた構造形式が採用されている。

■茅ヶ崎シオン・キリスト教会（2013年竣工）



楕円形の外観は聖鳩幼稚園が茅ヶ崎シオン・キリスト教会礼拝堂を囲むように取り巻いた“ストローハット”のような形態となっており、木造のやさしいテクスチャーは園児たちの情操を育むとともに、神聖な円筒型の礼拝堂とのハーモニーも見どころ。

設計：手塚貴晴＋手塚由比／手塚建築研究所

構造・規模：木造、1階建て、延床面積402.71㎡

■湘南キリスト教会（2014年竣工）



湘南の海にほど近い住宅街に建つ教会。新会堂は聖書の天地創造からインスピレーションを受け、屋根は6日間の神の業を表している。礼拝堂は、礼拝の時間には天空光で明るく、午後になると6枚の屋根のスリットから注がれる神の業を感じる直射日光が会堂にさまざまな表情を与え、祈りのために訪れた人を迎える。

設計：保坂猛建築都市設計事務所

構造・規模：鉄筋コンクリート造、1階建て、延床面積175.96㎡

■日本キリスト教団東戸塚教会（2015年竣工）



24枚の屋根プレートを隙間を開けながら組み合わせた雲のような屋根は、崇拜のための場所の原型として「古代イスラエルの幕屋」にインスピレーションを得たとされ、雲のように軽やかで、空との関係を感じさせる軽やかな建築。パイプ本数207本のパイプオルガンの音色にも注目。

設計：平田晃久建築設計事務所

構造・規模：鉄骨造、2階建て、延床面積114.57㎡

今回の教会は全てプロテスタント。厳格な伽藍配置や表現方法等の縛りはほとんどなく、自由な表現が可能となっている。とりわけメインである礼拝堂の採光は、シリンダーからのトップライトや波型ハイサイドライト、襷状サイドライトとさまざまな形態から荘厳な祈りの空間を演出していた。

その建築表現は、異なる構造形式、異なる感性（インスピレーション）、建築空間デザインを開花させた建築家の個性を生かした試みであり、訪れる者にさまざまな感動を与えてくれる密度の高い教会建築を堪能できた。

最後に、茅ヶ崎シオン・キリスト教会では、礼拝堂にて手塚貴晴氏自らがオルガンを演奏するサプライズがあり、たまたま手塚氏に帯同していたMITの学生達とともに、トップライトから差し込む柔らかな光に包まれた空間とのハーモニーに酔いしれることができた。